

包括だより 第22号



身体の機能低下や認知症などの進行による介護負担の増大、金銭的問題、人間関係など、様々な原因による『**高齢者虐待**』は、**どの家庭でも**起こる可能性がある身近な問題です。



住み慣れた地域で、安心して生活を送るためにも、深刻な状況になる前に、早めに気づき対応する事が重要です。

～知って防ごう『高齢者虐待』～

身体的虐待

たたき、蹴る。食事を無理やり口に入れる。薬を過剰に飲ませたり、外出させずに閉じこめるなど。

心理的虐待

怒鳴ることや威圧すること、無視や嫌がらせ。家族の団らんから排除など。

高齢者虐待ってどんなこと？

介護・世話の放棄・放任

食事や入浴をさせない。必要な医療や介護サービスを受けさせないなど。

性的虐待

排泄の失敗に下半身を裸にして放置する。性的な嫌がらせなど。

経済的虐待

日常生活に必要なお金を本人に渡さずに本人以外のために使ったり、年金や通帳を不正に取り上げるなど。

こんな悩みはありませんか？

- 仕事と親の介護で疲れて、つい親にきつく当たってしまう。
- 認知症の親が何度も同じことを聞いてくるのでイライラしてしまう。



このような悩みから**高齢者虐待**がおこることがあります。一人で悩まずご相談ください。適切な医療や介護サービスを使うことでご本人やご家族の負担を減らすこともできます。

周りにおられませんか？

- 家族の怒鳴り声や大きな物音がよく聞こえてきて心配。
- 汚れた服を着続けている人がいる。

身の回りの方で、あれ、おかしいな？何か変だな？「もしかしたら虐待かも？」と、思ったらご相談ください。



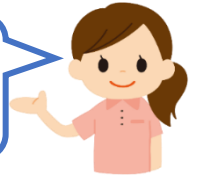
早期の相談は、**高齢者虐待**を未然に防ぐことや、**深刻化**を防ぐ事にもつながります。迷わずに**地域包括支援センター**(裏面)までご相談ください。



※相談者や通報者の個人情報必ず守られます。

認知症

誰もが気になるテーマ『認知症について』
今回は、接し方についての続きです。



前号にて、対応の心得をお伝えしました。その3つの「ない」を意識しながら、接していく事がとても重要でしたね。今回は、『物盗られ妄想』（お金を盗られた。物を盗まれた。）等のへの接し方（対応方法）について学んでいきましょう。

原因

認知症の方は、記憶障害によって、新しいことが覚えられなくなります。そのため、お金（財布）を自分で置いた（隠した）が、そのこと自体を忘れてしまいます。その時に、自分が置いていと思っている場所に無いと、自身ではその場所に置いていと思い込んでいるため、「誰かに盗られた。」となってしまうのです。

本人の元々の性格や生活背景などと相まって、分からなくなってしまった記憶を取り戻そうとするため、物盗られ妄想が引き起こされるとされています。家族や良くしてくれていた人など、身の回りの方が『物盗られ妄想』の対象になりやすいです。



対応方法



否定せず共感する・・・泥棒扱いされると否定してしまいたくなるは当然ですが、**まずは否定せずに「それは大変だね」などと共感してあげる事が重要です。**否定してしまうと、自尊心を傷つけてしまいさらなる悪化になります。

一緒に探す・・・落ち着いて話を聞き、「一緒にさがそう。」と声をかけて探してみましよう。見つかった時は、「あって良かったですね。」と声かけをして安心させてあげましよう。**もし先に見つけてしまっても、本人が見つかる事が出来るようにサポートすると良いです。**

ひとりで抱え込まない・・・普段の介護も大変で心労を抱えた中、犯人扱いされると、さらなる憤りや悲しみが伴います。認知症を患った本人にサポートがいるように、家族にも援助が必要です。**主治医・ケアマネジャーや地域包括支援センター等に相談して抱え込まない様にしましよう。介護保険サービスの導入等により、距離をおく時間をつくる事も介護をしていくためには重要な時間となります。**万が一介護している方が倒れ、認知症の方の介護ができなくなってしまったら大変です。介護者が元気でないと介護は成り立ちません。



次回 → 『接し方』について③

安芸高田市社会福祉協議会

安芸高田市地域包括支援センター（本所）

安芸高田市地域包括支援センター（ランチ）

電話・お太助フォン

☎47-1132

☎45-7530